

令和5年3月1日

いわき市病院事業管理者 新谷 史明 様

いわき市医療センター病院経営評価委員会
委員長 加藤 尚子

「いわき市病院事業中期経営計画（2021～2024）」に係る点検・評価
（令和3年度分）について（報告）

このことについて、「いわき市病院事業中期経営計画（2021～2024）」に基づくいわき市医療センターの令和3年度における取組状況等を点検・評価しましたので、次のとおり報告します。

本委員会で得られた助言・意見を院内で十分に検討し、今後の病院運営に活かしていただくことを期待します。

1 項目ごとの講評

(1) 令和3年度収支見通しと決算額の比較

- ・ 感染症の影響等で医業収益が落ち込む一方で、病床確保料等の財政支援制度の活用により、最終的な収支は大幅な黒字となっている。また、現金残高も確保されており、当面の病院運営に支障はないものと思われる。

(2) 基本方針ごとの取組状況

① 基本方針Ⅰ

- ・ 感染症の影響等により、目標値には届かなかった評価指標がある一方で、「がん医療」の実績等は目標値を達成するなど、全体的には高度急性期医療提供体制を維持できていると考えられる。
- ・ 地域医療機関との「顔の見える連携」の構築に向け、様々な手段で関係性を深め、紹介・逆紹介の推進に繋げていただきたい。

② 基本方針Ⅱ

- ・ 初期臨床研修医のフルマッチや、常勤医師数の維持については評価できる一方で、常勤医が不在の診療科が複数あることから、地方の医師不足が非常に深刻である中においても、医師招聘に係るこれまでの取組みを継続し、良質な医療の提供を目指していただきたい。
- ・ 令和6年度から適用される医師の時間外労働規制に向け、取り組むべき課題については、今後着実な取組みを進めていただきたい。

③ 基本方針Ⅲ

- ・ 感染症患者を受け入れる一方で、院内感染の発生等に十分注意しながら通常医療の提供を継続した点は評価できる。
- ・ 医療圏内唯一の感染症指定医療機関として、今後も地域で中心的な役割を担っていただきたい。

④ 基本方針Ⅳ

- ・ 経常収支が大幅な黒字となる一方で、感染症に係る病床確保を行っていることなどから、患者数が減少し、医業収益の確保が課題である。新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、病床利用率の向上等を通し、医業収益の回復に向けた取組みを進めていただきたい。

⑤ 基本方針Ⅴ

- ・ 計画通り「病院経営評価委員会」を設置するなど、取組みが着実に進められている。

2 全体の講評

令和3年度の病院運営においては、地域の中で求められる高度急性期医療と政策的医療の両立を図り、また、経営面では、新型コロナの影響で、医業収益が大幅に減少する中であっても、各財政支援制度に適切に対応した結果、最終的に経常収支が黒字となったことは評価できると考える。

一方で、感染症の終息後を見据え、地域で求められる政策的医療を着実に提供しながらも、本業である医業収益を回復させるための取組みをさらに進めていただくことを期待したい。